วารสารกรุงเทพฯ
クルンテープ
Since 1968　NO. 620 | 2019年 10月－12月

タイ国日本人会
Japanese Association in Thailand

特集1
佐渡島志郎大使誌上展覧会

特集2
チャオプラヤ川流域の橋と治水事業視察
夏休みスタディーツアー開催報告

第43回日本人会ソフトボール大会開幕戦
ボンバーズvs丸紅　7月7日(日)

ヤワラート、どこまで知ってる？？

実はギネス記録な黄金仏

1. ワット・トライミット博物館

ヤワラートの華人たちの歴史を紹介する博物館。この博物館のあるワット・トライミットの仏像は純度60%の金で鋳造されており、高さ3.9m重さ5.5tと世界最大の黄金仏です。

ザ中華街の見た目とタイらしいエピソード

2. 中華門（プミポン国王ご生誕72年祝賀門）

1999年12月5日、プミポン国王のご生誕72年を祝賀し、王室を敬愛する中華系タイ人たちの多くの寄付が集められ建てられました。

おじいちゃんたちの憩いの喫茶店

3. イヤッセー（益生老店）

80年以上の歴史を持つ老舗。レトロな雰囲気と25Bから楽しめるコーヒーは今のバンコクではちょっと稀有でノスタルジックなお店です。

見応えのある金の博物館

4. ヤワラート金博物館（陳剛金行）

オランダの建築家によって建てられ、中華風の調度品の洋館の６階にある博物館。金の生成や取引に用いられた道具などが展示されています。

カオマンガイと昔ながらのタイスキ

5. タイヘン（泰興）

1920年創業で中国海南島レシピのカオマンガイと炭火のタイスキを出すお店の草分け的存在のお店。

上座部仏教主流のタイでは少し珍しい

6. ワット・バンペンチーンプロット「ヨンホックイー（永福寺）」

前身の施設はラッタナコーシン王朝初期に華人によって設立されたと言われており、小さいながらも貴重な仏像が多く安置されており、タイでは珍しい大乗仏教の中国僧が常駐。

ユニークな白い仏塔はスリランカ式

7. ワット・カンマートゥヤーラーム

この寺院はラマ４世（約150年前）に設立され、インドの聖地サールナートのダメーク仏塔を模したスリランカ式の仏塔で、本堂には仏陀の生涯を表わす壁画があります。

できたてほやほやのMRTワット・マンコーン駅が目の前

8. ワット・マンコーンカマラワート「レンヌイイー（瀧蓮寺）」

1871年に開かれラマ５世によって命名され、中国南部潮州様式で建てられた中国系の寺院。本堂には釈迦如来像、阿弥陀如来像、薬師如来像、その他58の神様が祀られています。

希少な装飾が多い古廟

9. レンブアイイア廟（龍尾古廟）

アユタヤ朝中期に潮州華人によって建てられた廟。廟内の装飾はとても古く大変貴重価値が高く、中には明時代の鐘やラマ５世から下賜された香炉もあります。旅行や住居関連にご利益があると言われ、今日でも賑わっています。

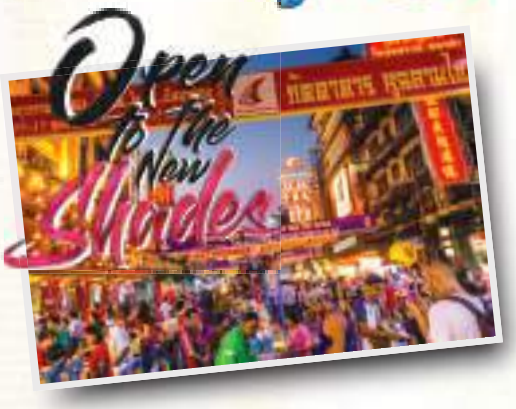
健康祈願の観音様

10. ティアンファー財団病院（泰京天華慈善醫院）の観音堂

泰京天華慈善醫院はタイ国初の華人系財団として1902年に設立され、当初は華人向けの中医と西洋医学の治療場として利用されていました。800～900年前の宋時代に彫られたと推測される観音菩薩像が安置されており、健康を祈願する多くの人がやってきます。

写真・情報提供協力　タイ国政府観光庁・中村慈恵・小川里枝子

Walking Bangkok



バンコクお散歩ルートマップ

遠くに旅行へ行かずとも、バンコクだって歩いてみると新たな発見が沢山。年中暑いバンコクですが、少し暑さも落ち着くこれからの時期、たまにはお散歩してみるのはいかがでしょうか。

ワット・ファランポーンは無縁仏を供養するお寺。自分の曜日カラーのロウソクを浮かべて祈念。敷地内にはタンブンで救われた牛もいます。

vol.10 バンコク都ヤワラート地区

ヤワラート＋α！ 中華街だけじゃ勿体ない

“Walking Bangkok”（タイ国政府観光庁が発行）ではバンコク都内のディープなおすすめお散歩コースをいくつも紹介していますが、今回は知っているようで知らない、ヤワラートについてご紹介します。チャクリー王朝時代に、現在の場所に華人たちが作った中華街が「ヤワラート」だと言われています。

周辺には花市場で有名なパーククローン市場やインド人街パフラット市場、そして日本人会が法要を行っている日本人納骨堂ワット・リアップ、タイ人に人気のパワースポット、ワット・ファランポーンも徒歩圏にあります。

パープルライン延伸の新駅ワット・マンコーン駅でヤワラートまでダイレクト！今までは最寄り駅はファランポーン駅でした（実は正式名称はクルンテープ駅）。↘

100年以上の歴史ある駅舎は味わいのあるローカル線の発着に利用されており、こちらも見どころ。

パーククローン市場
タイらしい鮮やかな花たち

タイ国日本人会
Japanese Association in Thailand

日本人会会員の皆様にお知らせです

クルンテープ誌が季刊誌として生まれ変わりました

１９６８年に発行しました会報誌クルンテープは、昨年で創刊50周年を迎え、今号で６２０号の発刊となります。半世紀にわたり、タイ国日本人会の足取りを知る大変貴重な資料や記録として、クルンテープ誌が果たした役割は計り知れないと考えております。

しかし、一方で、インターネットの普及に伴い、我々をとりまく生活環境も大きく変わってきました。

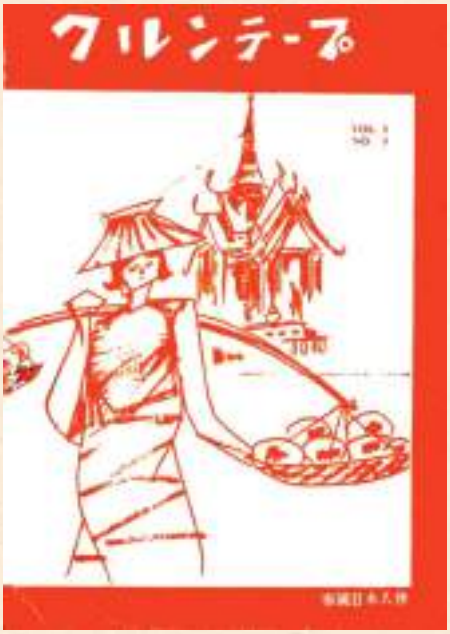
以前は、会報誌が日本人会へ入会することのきっかけの一つとなっておりましたが、現在は日本語の無料情報誌があふれており、会報誌が求められる役割も変化してきております。

日本人会も時代にあわせたタイムリーな情報発信を心掛けており、８月にはウェブサイトを刷新いたしました。従来クルンテープ誌でご紹介していた各同好会、サークル、部会の活動報告の詳

300号（1992年12月号）

200号（1984年8月号）

100号（1976年7月号）



創刊号（1968年1月号）

600号（2018年2月号）

500号（2009年9月号）

400号（2001年5月号）

半世紀にわたり日本人会会員の皆様にご愛読いただいてきた会報誌クルンテープ

細はより迅速にウェブサイトの「活動報告／リリース」にてご紹介するほか、Facebook、LINEでも最新情報・イベントの告知を行い、タイムリーに広く皆様のお役に立つ形で情報配信しております。

そのような背景の中で、会報誌の在り方に関して、月1回の編集委員会で、討議を重ねてきました。

会員様のニーズに合わせた魅力ある誌面づくりをするために、新しい連載や企画も生まれてきております。

クルンテープの情報がより多くの方々の目に触れ、入会のきっかけとなっていただくよう、今後は人気のコラムなどの内容を拡充し、コンテンツをウェブ上で公開していきます。

紙の会報誌は季刊誌として生まれ変わり、今後はオールカラーで3か月に1度の発行となりますが、凝縮した内容で会員の皆様により楽しんでいただける会報誌としてリニューアルいたします。

これからもご愛読いただければ幸いです。

（クルンテープ編集委員会）

LINE（登録者数約3000人）
LINE ID(@nihonjinkai)

日本人会 LINE QRコード

Facebook（フォロワー700人超）
http://www.facebook.com/JapaneseAssociationThailand/

８月より刷新した日本人会ウェブサイト
（月間ページビュー３万人）http://www.jat.or/jp

編集会議

วารสารกรุงเทพฯ
クルンテープ

2019年 10月－12月
NO. 620

●目次

03 Open to the new Shades
Walking Bangkok バンコク都ヤワラート地区

04 日本人会会員の皆様にお知らせです
クルンテープ誌が季刊誌として生まれ変わりました

07 佐渡島志郎大使 誌上展覧会
タイを知る会主催講演会開催報告：室賀さゆり
佐渡島大使とタイの繋がり「絵画を通じて感じたタイ社会」

12 スタディーツアー開催報告《夏休み企画》親子で参加！
チャオプラヤ川流域の橋と治水事業視察

17 俳句と短歌の広場

18 きっかけはタイ タイから繋がるライフストーリー
馬場心悟さん
タイの僧院で知った「寺」と「人」のあたたかい距離。

20 バンコクで暮らしてみて考える健康に過ごすコツ
サミティヴェート病院スクムビット　南　宏尚

22 活動報告

23 タイのお菓子は二度おいしい　ムシカシントーン小河修子
カノム・インタニン
タピオカ粉のおだんごをつるりとココナッツシロップで

25 すくすく会通信

26 ゴルフ部月例会成績

26 編集後記

P7

P12

表紙：第43回日本人会ソフトボール大会
開幕戦　ボンバーズvs丸紅
場所：Ratwinit Bangkaeo School

去る７月７日、毎年恒例の日本人会ソフトボール大会が開幕。第43回目の今年は、バンコク日本人学校からサムットプラカーン県のRatwinit Bangkaeo Schoolに場所を変えての開催です。

写真／ムシカシントーン小河修子

P23

佐渡島志郎大使 誌上展覧会

佐渡島大使。講演会会場の日本人会本館入り口で

外交官であり画家の貌を持つアーティスト佐渡島志郎大使の作品を間近に観ながら、お話をうかがう贅沢な講演会が開催されました。展示された作品の一部と大使のお話をあわせて鑑賞いただく誌上展覧会です。

タイを知る会主催講演会開催報告

室賀さゆり

佐渡島大使とタイの繋がり
「絵画を通じて感じたタイ社会」

室賀さゆり氏

2019年7月20日土曜日、日本人会本館にて在タイ日本国特命全権大使でいらっしゃいます佐渡島志郎大使による講演会が行われました。講演会当日は本館を入るとすぐに色彩鮮やかで光溢れる空間が広がっていて、まずは、大使がウボンラーチャターニー県で歓迎を受けた時に見られた踊りを描かれた作品が私たちを出迎えてくれました。館内には大使がタイで描かれた13枚の絵とバングラデシュ時代に描かれた3枚の絵、合わせて16枚の作品を展示させていただき、講演をお聞きする前から、普段とは違う本館の中の芸術的な雰囲気に圧倒され、講演会を聞きに来られた皆さんは、席に着く前から、思い思いに素晴らしい作品を鑑賞していらっしゃいました。

いよいよ私たちが、待ち望んで、もしかしたら、叶うのでは、という願いをかけて実現することのできた大使のご講演の始まりです。

お話が始まると、意外にも大使がタイに来られて初めて日本人会の本館に足を運んでくださったことがわかり、感動。おそらく、これまでの多くのイベン

クロントイ市場３部作

クロントイ市場に出かけた際に撮ってきた写真をもとに、自分の好きなように構図や色を変えて描いています。皆さんご承知のようにタイの市場というのは規模がでかい。バンコク市内には大規模な市場がたくさんありますが、クロントイは生鮮食品市場としてはおそらく最大規模。広さはおおよそ600m×300m、1000を超える店舗がひしめき、虫も売ってるカエルも売ってる。クロントイのど真ん中に立つとはしっこがみえないほどです。私は人を描くのが好きなので市場というのは格好の材料探しの場になります。タイの人には危ないから行くなと言われるんですが、私にとってはあまりにも面白くてしょっちゅう行っております。

囲気が漂っていって、この絵にり上げた商人ののを商う個人商の華人たちは現身地の方言を話国語がうまくな後のタイの政策

トに関わってこられた時は、全て外部の会場で、本館に足を運ばれるチャンスは巡ってこられなかったようで、この日が記念すべき大使の日本人会への一歩になりました。

まずは、大使が絵をお描きになられるようになったきっかけを。もともと、芸術の才の高い家系でいらっしゃったようで、それが開花されたのが、バングラデシュはラビンドラナート・タゴールを輩出したような芸術性旺盛な国ですから、人々はお金がなくても心は豊か。工場の交代の時間に一斉に出てくる女性の服の様々な色彩や柄に目を奪われ、描いてみたいと思われたという今でも手元にお持ちの習作1号で説明をされました。速乾性の高いアクリル絵の具で描かれたというその作品は、初めてとは思えない力強さに溢れ、大使の表現したいと思う気持ちが映し出されています。そのほか、当日搬入していただいたバングラデシュ時代の作品を習作第1号を入れて3作品をご紹介いただきました。

タイに赴任されたのは２０１５年４月。お忙しい毎日。趣味もたくさんお持ちの大使でいろんな誘惑も多くバングラデシュ時代ほどは絵に集中できないそうですが、タイでは市場を巡り、いろんな様子を見たり、写真に納められたりするのがお好きだそうです。勿論、市場の店舗数、売り上げ、そこで働く人々についての様々な情報、王室プロジェクトや様々な政策など

色鮮やかなバングラデシュの人たち

シャッキラ村というバングラデシュの西の果て（インドとの国境）に行った時のこと。村人が別れ際に水辺を歩いて手を振ってくれました。この国を離れたらこういう感じでバングラデシュを思い出すだろうなと思いながら描いた絵です。

焼きバナナ売りのおばあさん

ヤワラートで焼きバナナ一筋何十年という雰るおばあさんを見かけて、たまらず写真を撮なりました。ヤワラートは中国系の住民が作町です。一つ裏の通りに入ると実に様々なもがひしめき合っています。東南アジアの他国地の言葉はもちろん、標準中国語、祖先の出せる人が多いですが、タイの華僑は概して中く、漢字が読めない人が多い。これは戦中戦によるものです。

水上マーケットのバンワーのおじいさん

バンワー方面の水路で撮った写真を基に描いた絵。タイと言えば水路、運河です。私が最初にタイに足を踏み入れたのは1979年。そのころはまだ縦横無尽に水路が走っておりました。集団コメ作り民族である日本・ベトナム・タイにはこういう水路が発達している。江戸・大阪も水上マーケットがありました。タイの場合は最近までそれが残っていて、水路の数は19世紀には1200本、最近は1100本ぐらいまで減少しています。運河の長さは合わせて1200kmですが、通勤で使われているのは70km弱だそうです。大使公邸のすぐ裏にセンセーブ運河があり、伊勢丹に行く時などはそこで舟に乗ります。渋滞がない上、11B。これを使わない手はない。

数字的なものはきっちりと抑えておられながら、人々の表情やそこに息づく人間の営みにも興味を持って、画材になりそうなものの情報収拾もされる。「クロントイ3部作」「焼きバナナ売りのおばあさん」の作品など、売り手やそこにいる人々の息遣いが聞こえてくるようです。大使が描かれる絵は、写真を撮られた後で写真を見ながら、イメージを作り上げて組み合わされたものも多いそうです。

さらにスラム地区と難民の問題についてお話いただきながら、かつては多かった水上生活者も今は、観光用に商売を行なっているだけのものがほとんどであるということを教えていただきました。センセーブ運河を利用されることもあるという大使のお言葉には、会場の皆さんも驚きましたが「水上マーケットのバンワーのおじいさん」の絵には対になる絵もあるということで、その作品も完成させていただいて是非並べて見せていただきたいと思うような、かつてはかなり頻繁にボートが行き来していて活気に溢れていたであろう水上マーケットの風景がそこには広がっていました。

さて、入り口で出迎えてくれた「歓迎の踊り」で紹介していただいたスリン県やウボンラーチャターニー県は

ラーマ９世の肖像

2016年10月にラーマ９世がお亡くなりになって、その翌月に敬意をこめて描きました。ホアヒンで大学の生徒さんたちにお話しされている時の写真を見て描いています。王室フォトコレクションの中で前国王陛下のお人柄が一番あらわれている写真を選んで描きました。普段は公邸に飾っています。

歓迎の踊り

ウボンラーチャターニー県の伝統絹織物師の絹工房に行った時に踊りの歓迎を受け、その時の写真を組み合わせて描きました。タイ政府が2015年にDiscover Thaiのキャンペーンを始めた時に、織物の伝統が色濃く残る29の県を七つのルートに分けて指定。東北のルートにあたるのがこのウボンラーチャターニー県。200年前の絹織物を集めて復刻する活動が続けられています。

織物の盛んな地域で、タイには今、七つの絹織物のルートがあるということです。ルートの場所を詳細にお聞きした後、ご活躍中のタイ伝統工芸七巨匠のお名前もご紹介いただきました。伝統に関連して、外国人見学用に人形劇を行っている小屋でパフォーマンスを見たときのお話をしていただき「操り人形劇」の作品をご紹介いただきながら、タイの人形の動かし方は、人形と人の動きがシンクロしていて黒子が黒子に徹しきれていない。一緒に見せる、というのが日本人と違って、タイ人らしい、というお話をしてくださいました。

大使がタイで描かれた13枚の絵を見せていただきながら、いろんなタイのお話を伺った時間は本当にあっという間で、ご講演後にも、参加者の皆様からの質問にも丁寧にお答えいただいて、１時間半が瞬く間に過ぎま

タイの伝統操り人形劇

バンワーの水路の横に小さなシアターがあります。平日には本業がある芸人さんたちが、週末だけ観光客向けに一部をかいつまんでパフォーマンスしてくれて、短時間でいろんなものが楽しめます。タイの人形浄瑠璃や影絵は特徴があり、人形の動きと操る人の動きがシンクロしているんです。黒子が黒子に徹し切れていない。タイ人気質が見えて非常に面白いですね。日本人にはない発想です。

した。お話を伺った後に再び、ゆっくりと絵を鑑賞させていただくとお話の中で、大使がタイについて感じていらっしゃる様々な人々の生き様が、絵に込められているようで、最初に目にした時とは違った表情に見え、タイ生活が更に彩りある楽しいものに見えてくるようでした。

※今回の講演会は、タイを知る会主催ということで開催させていただきましたが、多くの方々のご協力をいただいて開催することができました。飯田様はじめ大使館の皆様、島田会長はじめ日本人会の理事の皆様、パーソネルコンサルタント小田原様、阿部恭子様、熊本事務局長はじめ日本人会事務局の方々、山川様はじめタイを知る会の協力会員の方々、本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます（室賀）。

習作

事実上の第一号。本をさっと読んで、絵の具の盛り上がらせ方や色の見せ方など勉強しながらこれを最初に描きました。モデルはファッションデザイナーの山本寛斎さんのところの舞台監督をやっていた方。実はご本人は自分がこういう風に絵に描かれているのはご存じありません。帰国したらお渡ししようと思っています。この後、習作をする時は独身の女性しか描いておりません。

写真／ムシカシントーン小河修子